

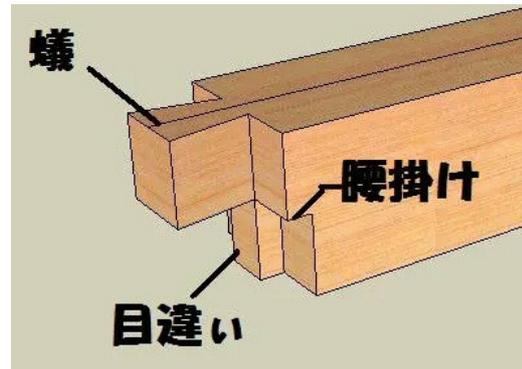
飯下建設業人材育成支援センターでは、下伊那教育会教科等研究推進委員会（家庭、技術・家庭科委員会）の依頼を受け、2025年1月31日（金）に高森中学校において飯田下伊那の小中学校で技術を担当する12名の教諭に、実践的技能研修事業として、在来工法の技法「腰掛蟻継ぎ」を指導しました。

飯下建設産業労働組合連合会より田中孝志副会長と吉沢副会長、18年前の実施にあたって協力いただいた豊丘支部から、竹内支部長、壬生秀寛副支部長、壬生一さん、5名が講師となり、杉と桧の色違いの材により、接合部分が確認できる継ぎ手の作成の指導をしました。50分間と短い時間であったため完成できなかった教諭もあり、「持ち帰って完成させる。」と意気込んでいらっしゃいました。センター担当委員の安藤先生（遠山中学校）も参加されており、後日、「すごく楽しかった。毎年お願いしたい。」とのことばがありました。

今後、小中学校の授業で在来工法の技が披露されることが期待されます。



女木（先に加工済み。3寸5分角のミチユア）



男木（墨付け済み。切断と彫り）



鋸の縦引きと横引きの刃の説明をする講師



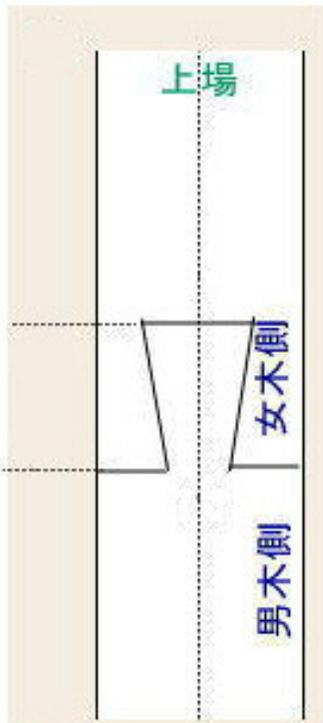
墨付けにそって男木を切断する教諭



腰掛や目違いの凸部分をノミで彫る教諭



男木と女木の接合を手伝う講師



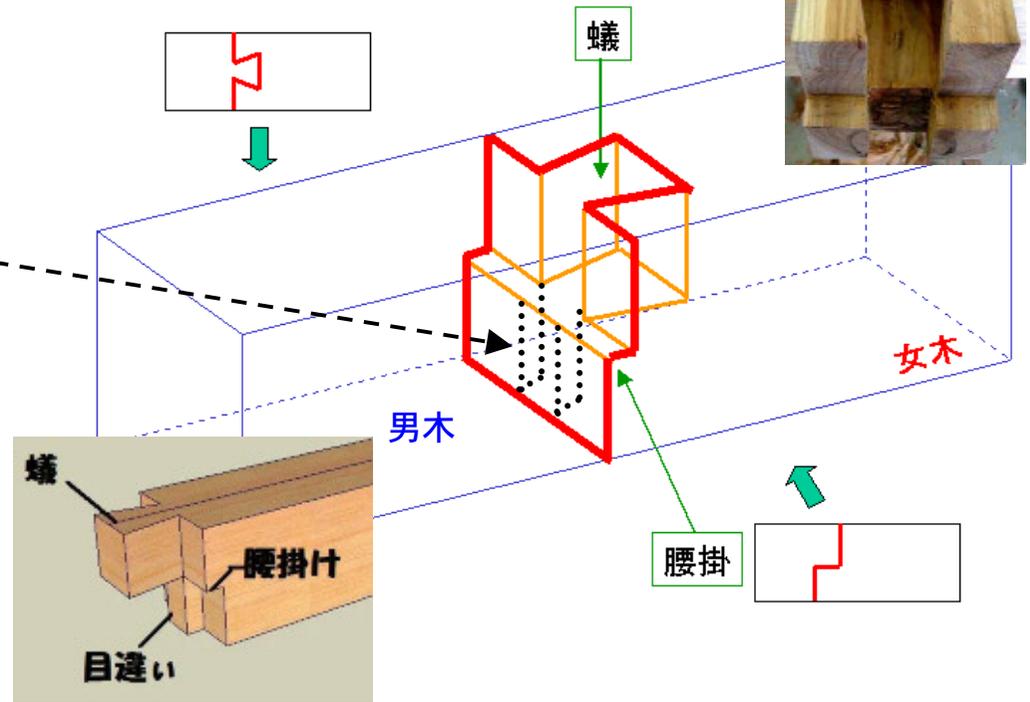
腰掛け蟻継ぎ

男木と女木を「杉」と「桧」の色違いにすることで接合部が分かるようにする。サイズは3寸5分角のミニチュアタイプの予定。女木側は先に加工しておき、男木側を教諭に加工してもらう。(縦引鋸を使用) 目違も彫るのでノミが必要...(学校用意) 墨付けはしておく。



腰掛け側面図

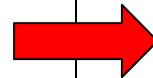
## 腰掛け蟻継ぎ



これは目違無しタイプの写真



腰掛け蟻継ぎ完成写真

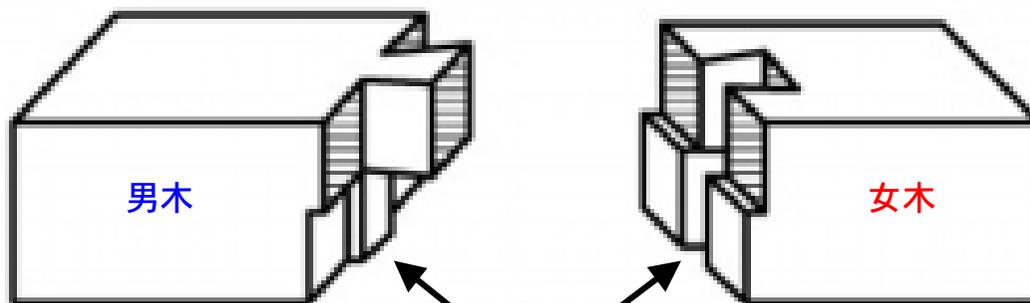


目違無し

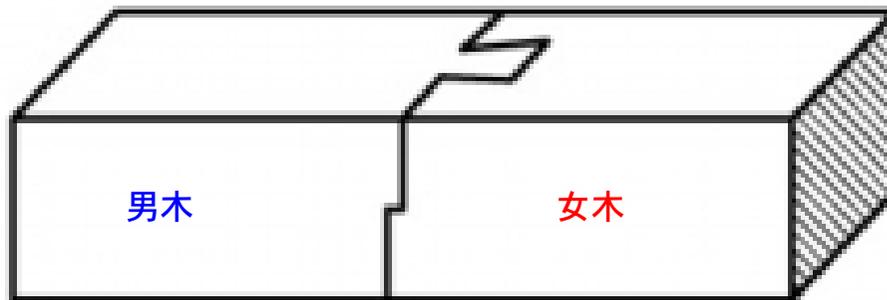


↑腰掛部分は安定しない

目違あり



腰掛部分にも凹凸を作って固定させる



↑腰掛部分が安定する

目違：二つの面に食い違い(ずれ)が生じること。二つの材を継ぎ合わせた時、お互いの面が同一の平面とならないことや目地がずれることをいう

長野県飯田市鼎下山839番地1  
飯下建設産業労働組合連合会 内  
飯下建設業人材育成支援センター  
電話：0265-23-3512